イ　実施方針

てんでんこ創造の杜づくり　― 仙台のはじまりの地に築く過去と未来の狭間 ―

仙台湾の上流にある**広瀬川河岸段丘の最上段**に、1600 年に伊達政宗が築いた**五城楼**。
それから 400 年の歳月が流れ、仙台は自然の猛威に晒されながらも豊かな文化を育んできました。
そして令和の時代、新たに誕生するこの施設は、戦国の城に代わる**平和と文化の象徴**です。
この施設は、数十年のうちに大きな杜の緑に包まれ、平和の城としてその姿は徐々に自然に溶け込んでいくでしょう。そして、その杜からは、「**てんでんこ**」の調べが世界中に響き渡り、さまざまな活動が**泉のように湧き出る創造の杜**となります。
「**てんでんこ**」には以下の **4 つ**意味が込められています。
・自助原則の強調・他者避難の促進・相互信頼の事前醸成・生存者の自責感の低減

①本事業の理解度や課題認識の適切さ

人と人・まちと世界・文化と文化・自然と都市・日常と非日常が交わり、より良い未来をつくります

1. 人と人

・多様な人々が多様な価値観をもって活動を行える場を、建築全体にちりばめます。グローバル MICE 都市の中核を担う施設とし、世界中の人と繋がることができる場です。

2. まちと世界

・災害の記憶は絶やしてはならないものです。震災の記憶、教訓、被災者の思いを本施設を回遊する中で学び、交流することで世界へ災害文化を発信します。

3. 文化と文化

・学都仙台の文化芸術と震災を目の前で経験した仙台の災害文化を相互に連続させた施設とします。ここでしか学ぶことのできない唯一無二の役割を果たします。

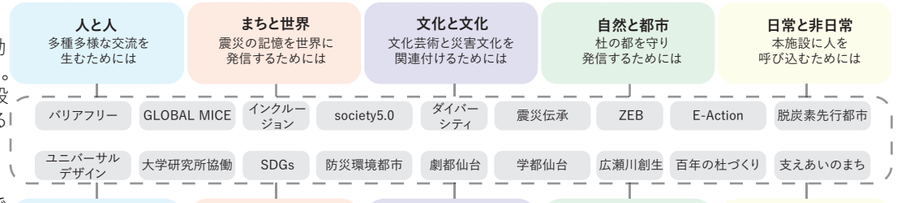
4. 自然と都市

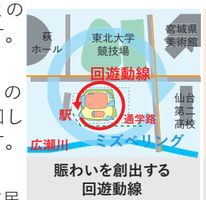
・広瀬川河岸段丘の特性を活かした段々の空間と杜の都にふさわしく自然に調和した様々な生態系が集まる場となります。

5. 日常と非日常

・散歩ついでにここで団欒を楽しむ仙台市民の日常と文化芸術・災害文化の活動である非日常の双方が外に開かれることで人が流れ込みさらに賑わいを生む施設とします。

1~5 を達成するために“だいち”と“にわ”の機能で多様な生態系をつくります。



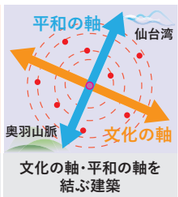


賑わいを創出する回遊動線

ミズベリングと連続する**回遊動線**とすることで人と人とが繋がり交流を生み、**賑わいを創出**します。また、青葉山公園エリアは**グローバルMICE**が開催される場であり、**グローバルな交流**を生む中心施設とします。

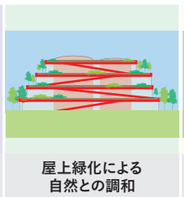
点在するメモリアルスペースによる記憶の伝承

震災の記憶は決して絶やしてはならないものであり**世界にも発信**する必要があります。ここに訪れる多種多様な人々が**建物を回遊**する中、震災に対する知識と記憶を学ぶ**災害文化発信の核**となる施設とします。



文化の軸・平和の軸を結ぶ建築

仙台市内の各種ホールや東北大学などによる**文化の軸**と、3.11メモリアル交流館や戦後復興記念館、旧荒浜小学校などによる**平和の軸**の**中心**となり、**文化芸術と災害文化を発信・伝承の核**となる施設とします。



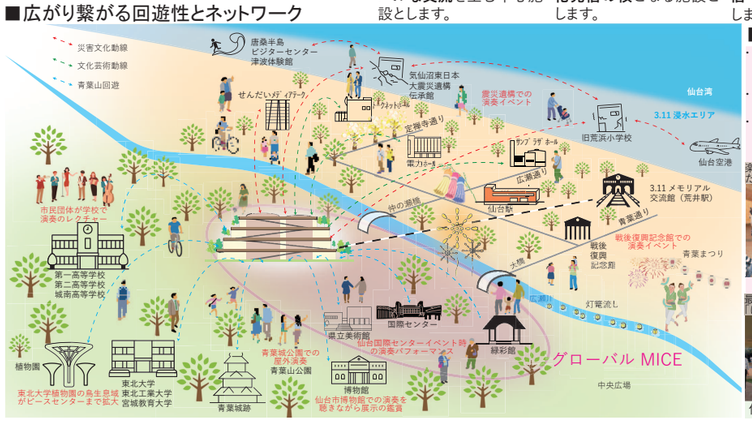
屋上緑化による自然との調和

屋上緑化することで**杜の都**にふさわしい**自然に調和**する施設とします。仙台市内を散策すると木漏れ日が感じられる様に、本施設でも**スロープを介し散策**ができる**杜の都を象徴**する施設とします。

市民に親しまれる視認性の良い壁面

側面の外壁は基本的に**屏風状のガラス面**とします。活動の様子が外部から確認でき、**地域に開かれ**市民に親しまれる施設とします。建物自体が人を呼び込みそこから湧き出る活動や**文化芸術・災害文化**を**世界に発信**します。

■広がり繋がる回遊性とネットワーク



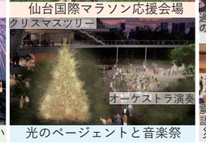
■アイデアの泉「年間スケジュール」

- みんなで作る震災記念モニュメント
- 学生の考えを世界へ 卒展
- 震災の知識を楽しく学ぶ防災グッズ
- 青葉祭りを盛り上げよう
- ご当地ｷｯﾁﾝｶｰ
- みんなの居場所 Garden を作る
- 7.10 仙台空襲追悼コンサート
- 仙台七夕音楽祭
- ジャズを知り楽しむｼﾞｬｽﾞﾗｲﾌﾞ
- YOSAKOI 祭囃子演奏会
- ハーフマラソンを応援しよう
- 落ち葉で遊ぼう秋の Garden
- 光のﾍﾟｰｼﾞｪﾝﾄを世界へ発信
- 世界へ響く光のｺﾝｻｰﾄ
- society5.0 へ光の新技術、AI による防災対策講座

3.11 防災グッズ制作

仙台国際マラソン応援会場

仙台七夕花火「にわ」の賑わい



光のページェントと音楽祭

②業務の実施可能性や対応力、コスト管理力

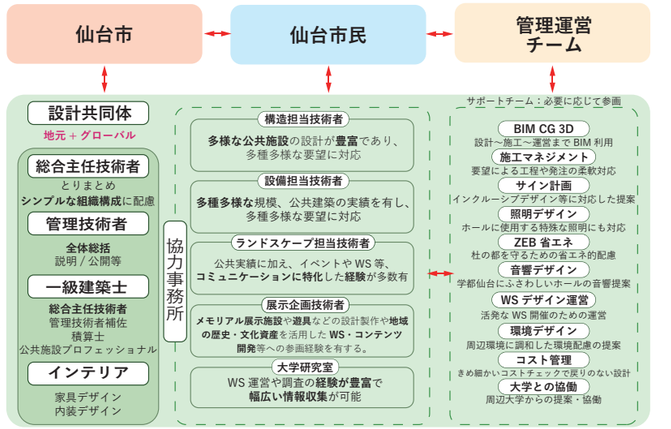
「仙台市民と共につくる」を目的とした業務体制

■地元 + グローバル JV によるプロフェッショナルチーム

・本計画のチームの中心となる設計共同体は、国内外での環境建築の実績が豊富な設計事務所と本計画地の気候や風土を知り尽くした 85 年の経験がある地元設計者で構成します。
・構造担当技術者・設備担当技術者は、大規模な公共建築の設計が豊富であり、多種多様な要望に対応できます。
・各分野の専門家が本事業に対し、より良い提案や意見ができる体制とし、仙台市民に誇れる施設とします。

■仙台市と管理運営チームと設計チームの関連性

・設計チームは仙台市と密にコミュニケーションを図り、意見を取り入れます。また管理運営チームとも設計段階から打合せすることで、開業までの準備とその後の運営までスムーズに進めます。
・ワークショップにより、市民とのコミュニケーションを図ります。設計段階をアーカイブとして記録し、発信・共有することで地域に根差した施設を作ります。



③対話への取組みや調整力

様々な手法で対話をデザインします

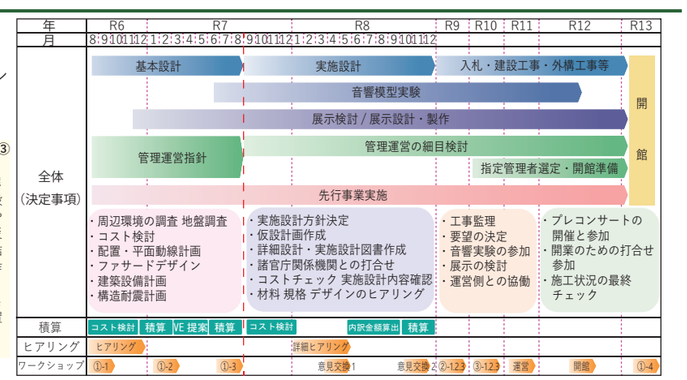
■みんなでつくる 0 から 100 まで

・仙台市民や建築関係者、運営管理者、仙台フィルハーモニーメンバー等様々な方面から意見を出し合い、みんなで 0 から 100 まで施設に携わるようにコーディネートします。

市民参加型ワークショップ①「0 を 1 にそして 100 へ」
・**設計初期**のワークショップとして、ここに携わるすべての関係者、仙台市民が**新たな杜の種**を植え、そして竣工時には**植樹**し施設を作り上げます。
・すべての人が垣根を超え、**0 を 1** にし、そして **100** になるまで携わるみんなで作る施設を実現させます。
・本事業に**多種多様な人が関わる**ことで、いつまでも愛される施設になります。

市民参加型ワークショップ②「震災の記憶を身近に」
・**施工段階**のワークショップは**震災の記憶**を絶やすことなく**継承**して行くことを目的として開催します。
・いまだ処理率 100％ではない**震災のがれき**や**廃材**を利用した**家具製作**を意見交換会と並行し行います。この家具を本施設や周辺施設に利用し、**震災の記憶を継承**します。

市民参加型ワークショップ③「市民による市民のための」
・本施設を仕切る**間仕切壁（屏風）**を**市民がデザイン**し、設置することで仙台市民の声や震災の記憶、芸術文化、防災対策の工夫等**仙台らしさ**が詰まった施設を市民によって作ります。
・ここで作成した屏風は宮城県美術館リニューアルにも設置してはどうでしょうか。



④施設の維持管理、長寿命化に係る考え方

100 年後もアップデートし続ける施設

■改修・改築や用途変更が可能な建築計画

・構造体としての壁を作らず、利用者が用途に合わせて移動できる可変性のある間仕切り壁を組み合わせた計画とします。
・将来的な用途に応じて屋外部分増築可能で変更に対応します。
・解体時の廃材・古材の活用やリサイクル素材の採用を積極的に行います。例：天然木 珪藻土 火山灰ガラスの自然素材

■建物を長寿命化し防災都市の要とする

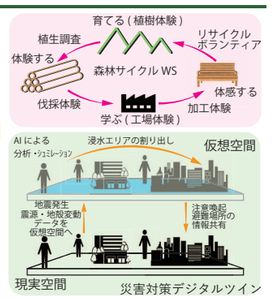
・ホールをコアとして建物全体を免震構造とすることで、有事に強く躯体が永くもつ計画とします。
・「だいち」を RC で頑強に、「にわ」を鉄骨で軽やかにすることで、地盤にかかる負荷を軽減します。
・災害時には 72 時間の BCP 機能を保持します。

■脱炭素を目指すサスティナブルな建築計画

・宮城県産木材を内装や家具に用いることで地域環境に配慮した計画とします。
・パッシブ・アクティブ技術の組合せにより、省エネルギーで環境にやさしいメモリアルホールを提案します。ZEB Ready の取得を目標とし、さらに Nearly ZEB の取得も検討します。

■ BIM を用いた効率的な維持管理

・BIM を用いてデジタルツインを作成し、維持管理に活用します。
・BIM のスペシャリストを配置し、設計～施工～維持管理まで行います。



整理番号：